

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
0 建築物の環境品質・性能						2.8
Q-1 室内環境			0.30			3.2
1 音環境		3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 騒音		5.0	0.40	-	-	
1.1.1 暗騒音レベル	居室ゾーンの限定シダクト延長を最小とした空調機器で騒音を低減	5.0	1.00	3.0	-	
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-	
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		2.8	0.35	-	-	2.8
2.1 室温制御		3.5	0.50	-	-	
2.1.1 室温設定		3.0	0.30	3.0	-	
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
2.1.3 外皮性能		3.0	0.20	3.0	-	
2.1.4 ゾーン別制御性	居室平面形状がゾーン別制御に適している	4.0	0.50	-	-	
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
2.1.6 個別制御		-	-	-	-	
2.1.7 時間外空調		-	-	-	-	
2.1.8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用		3.6	0.30	-	-	
3.1.1 昼光率	北面、東面に面する開口部からの天空光を有効利用	4.0	0.60	3.0	-	
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
3.2.2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.3.1 照度		3.0	1.00	3.0	-	
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気環境		3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
4.1.1 化学物質汚染	VOC規制対象外の仕上材料を積極的に全ての仕上げ材に選定した	5.0	1.00	3.0	-	
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
4.2.2 自然換気性能		1.0	0.33	3.0	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4.2.4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
4.3.2 喫煙の制御		1.0	0.50	-	-	
Q-2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.2
1 機能性		2.9	0.40	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.60	-	-	
1.1.1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペースは快適性、執務効率性が高い	4.0	0.33	3.0	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.3	0.40	-	-	
1.2.1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-	
1.2.2 リフレッシュスペース		1.0	0.33	-	-	
1.2.3 内装計画		3.0	0.33	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.6	0.31	-	-	3.6
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-	
2.1.1 耐震性	構造体耐震性を 類、重要度係数1.25として耐震性を高めている	4.0	0.80	-	-	
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.33	-	-	
2.2.1 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.29	-	-	
2.2.2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.12	-	-	
2.2.3 配管・配線材の更新必要間隔		3.0	0.29	-	-	

3 対応性・更新性			3.1	0.29	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		主要構造部でない壁で間仕切を構成し、プラン変更の柔軟性を確保	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース			3.0	0.22	-	-	
Q-3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							2.9
LR-1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			4.0	0.29	-	-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		昼光センサー導入により照明器具の点灯を制御し省エネに寄与	4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		太陽光パネルを設け自然エネルギーを有効利用する	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化			3.0	0.43	-	-	3.0
4 効率的運用			3.5	0.29	-	-	3.5
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		建築主に対して、環境負荷の削減に係る運営要領・維持管理費を提案	4.0	0.50	-	-	
LR-2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水		節水型衛生器具を積極的に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム			3.0	0.67	-	-	
2 雑排水利用システム			3.0	0.33	-	-	
2 低環境負荷材			2.9	0.85	-	-	2.9
2.1 資源の再利用効率			2.3	0.35	-	-	
1 躯体材料の再利用効率			3.0	0.67	-	-	
2 非構造材料の再利用効率			1.0	0.33	-	-	
2.2 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.04	-	-	
2.3 有害物質を含まない材料			3.0	0.08	-	-	
2.4 既存建築躯体などの再利用			3.0	0.18	-	-	
2.5 部材の再利用可能性		工場生産部品を乾式工法で取り付け、容易な将来更新に配慮	4.0	0.18	-	-	
2.6 フロン・ハロンの回避			3.0	0.18	-	-	
1 消火剤		環境に影響を与えない粉末消火器を設置する	4.0	0.33	-	-	
2 断熱材			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒			2.0	0.33	-	-	
LR-3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.4
1 大気汚染防止			3.0	0.15	-	-	3.0
2 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.15	-	-	3.0
2.1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2.2 振動			3.0	0.33	-	-	
2.3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3 風害、日照障害の抑制			3.0	0.15	-	-	3.0
3.1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
3.2 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
4 光害の抑制			3.0	0.10	-	-	3.0
5 温熱環境悪化の改善			1.0	0.30	-	-	1.0
6 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.15	-	-	3.0
6.1 雨水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
6.2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
6.3 交通負荷抑制		駐輪場の確保、投入・搬出室の確保、混乱抑制の為目的別に3ヵ所の出入口	4.0	0.25	-	-	
6.4 廃棄物処理負荷			2.0	0.25	-	-	

LR-1 用途別得点表		工場	-	-	-	面積按分 総合スコア
		2281 m ²	-	-	-	-
1	建物の熱負荷抑制	-	-	-	-	-
3	設備システムの 高効率化	ERRによる評価 個別設備による評価	-	-	-	3.0
3.1	空調設備	-	-	-	-	-
3.2	換気設備	-	-	-	-	-
3.3	照明設備	3.0	-	-	-	-
3.4	給湯設備	3.0	-	-	-	-
3.5	昇降機設備	-	-	-	-	-